

事業計画書目次

[教育委員会事務局]

17款7項2目

(単位：千円)

計画書頁	事業名	令和6年度		令和5年度		増△減(6-5)		新規・拡充
		事業費	市債+一財	事業費	市債+一財	事業費	市債+一財	
1	健康・体力づくり推進事業	810	810	810	810	0	0	
2	学校体育振興事業	66,182	66,182	43,203	43,203	22,979	22,979	○
4	体験学習等援助費支給事業	31,845	31,845	27,046	27,046	4,799	4,799	
5	少年自然の家運営費	190,523	190,392	190,494	190,363	29	29	
7	中学校部活動支援事業	347,858	265,438	352,949	268,479	△ 5,091	△ 3,041	
9	武道安全対策事業	22,594	22,480	21,379	21,289	1,215	1,191	
	計	659,812	577,147	635,881	551,190	23,931	25,957	

令和6年度 事業計画書

事業局課	教育委員会事務局	教育課程推進室	新規拡充	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 拡充	事業評価書番号	1
歳出予算科目	一般会計	17 款	7 項	2 目	政策番号	5 施策番号 99
事業名称	健康・体力づくり推進事業					

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和6年度	810	0	0	0	0	810
令和5年度	810	0	0	0	0	810
増▲減	0	0	0	0	0	0

歳出		令和3年度	令和4年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	事業費	840	840	840	840	840
	市債＋一般財源	840	840	840	840	840
決算	事業費	805	800			
	市債＋一般財源	805	800			

事業概要 (アクティビティ)	児童生徒の運動能力データ等を調査、分析し、子どもたちの健康推進、体力向上を促進する。																																																			
事業指標① (アウトプット)	年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度																																												
一週間に週3日以上 (授業以外)運動する 子どもの割合	単位	目標	42	44	46	48	50	50																																												
	%	実績	41.8	40.9																																																
事業指標② (アウトカム)	年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度																																												
	単位	目標																																																		
	実績																																																			
事業目的	本事業は、市立の小学校、中学校、義務教育学校の児童生徒一人ひとりの、生涯にわたる心身の健康の保持増進と豊かなスポーツライフの実現に必要な資質・能力を育成することに向けて、児童生徒の運動能力の把握、分析を通じて、児童生徒の健康な体づくりに関する各学校の取組や、教育委員会における今後の効果的な施策に繋げることを目的とする。																																																			
背景・課題	横浜市の児童生徒の体力は低下傾向にあり、要因として情報化の進展やライフスタイルの多様化等の社会状況の影響があげられるため、児童生徒が生涯にわたって主体的に健康を保持増進することが重要となる。																																																			
根拠法令・方針決裁等	横浜市中期4か年計画、横浜市教育振興基本計画																																																			
根拠・データ等	<p>・一週間に週3日以上(授業以外)運動する子どもの割合【横浜市立小中学校児童生徒体力・運動能力調査】</p> <table border="1"> <tr> <td><年齢></td> <td>6歳</td> <td>7歳</td> <td>8歳</td> <td>9歳</td> <td>10歳</td> <td>11歳</td> <td>12歳</td> <td>13歳</td> <td>14歳</td> <td>平均</td> </tr> <tr> <td>(R5)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><男子></td> <td>28.2%</td> <td>38.7%</td> <td>46.9%</td> <td>54.1%</td> <td>54.2%</td> <td>50.8%</td> <td>55.9%</td> <td>66.4%</td> <td>62.8%</td> <td>50.9%</td> </tr> <tr> <td><女子></td> <td>20.1%</td> <td>27.0%</td> <td>33.7%</td> <td>38.7%</td> <td>35.6%</td> <td>29.3%</td> <td>33.0%</td> <td>48.9%</td> <td>45.7%</td> <td>34.7%</td> </tr> </table>								<年齢>	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	平均	(R5)											<男子>	28.2%	38.7%	46.9%	54.1%	54.2%	50.8%	55.9%	66.4%	62.8%	50.9%	<女子>	20.1%	27.0%	33.7%	38.7%	35.6%	29.3%	33.0%	48.9%	45.7%	34.7%
<年齢>	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	平均																																										
(R5)																																																				
<男子>	28.2%	38.7%	46.9%	54.1%	54.2%	50.8%	55.9%	66.4%	62.8%	50.9%																																										
<女子>	20.1%	27.0%	33.7%	38.7%	35.6%	29.3%	33.0%	48.9%	45.7%	34.7%																																										
事業スケジュール	昭和41年度：事業開始 平成17年度：実技等指導補助者派遣事業開始 平成22年度：体力アップよこはま2020プラン(横浜市子どもの体力向上推進計画)策定 平成28年度：体力アップよこはま2020プラン改訂(後期5年の方針) 令和2年度：実技等指導補助者派遣事業廃止 令和3年度：横浜市「健やかな体」育成プログラム策定																																																			
事業開始年度	昭和41年度																																																			

(単位：千円)

細事業(事業内訳)	細事業名称		6年度	5年度	差引(増減)	増減説明
	1	体力・運動能力調査事業	810	810	0	
細事業合計		810	810	0		

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、公正・適正に作成しました。	課長 山本 朝彦	係長 友田 義治	田中 彩映子
------------------------------------	-------------	-------------	--------

令和6年度 事業計画書

事業局課	教育委員会事務局	小中学校企画課	新規拡充	□ 新規 ■ 拡充	事業評価書番号	2					
歳出予算科目	一般会計	17	款	7	項	2	目	政策番号	5	施策番号	99
事業名称	学校体育振興事業										

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和6年度	66,182	0	0	0	0	66,182
令和5年度	43,203	0	0	0	0	43,203
増▲減	22,979	0	0	0	0	22,979

歳出		令和3年度	令和4年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	事業費	121,629	26,263	66,182	66,282	66,282
	市債＋一般財源	91,643	26,263	66,182	66,282	66,282
決算	事業費	18,414	21,255			
	市債＋一般財源	14,917	21,255			

事業概要 (アクティビティ)	各種大会や研究会などを通じ、児童生徒への体育への興味関心を高めるとともに、技能の向上や体力の増進を図り、学校体育を振興します。							
事業指標① (アウトプット)	年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
	単位	目標						
		実績						
事業指標② (アウトカム)	年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
	単位	目標						
		実績						
事業目的	児童生徒の体育への興味関心を高め、健やかな成長を促すにあたり、運動機会の確保や運動・スポーツへの取組に対する意欲の向上等のきっかけとなる本事業は、非常に重要です。また、学校体育の各種大会の運営の補助やスポーツ活動振興のための各種事業・研究活動等の負担も行って、子どもの体力向上や部活動の活性化といった本市施策を具体化する上でも有用性の高い事業です。							
背景・課題	学校体育活動の成果を發表し合うことで、児童生徒の運動能力や技術を向上させるとともに、学校体育活動を活性化させ、子どもたちの体力つくりと学校体育の振興を図ることを目的として、昭和26年度に事業を開始しました。							
根拠法令・方針決裁等	各種大会補助金：横浜市学校体育振興事業補助金交付要綱 県体育連盟加入金等：神奈川県小学校体育研究会規約・神奈川県中学校体育連盟規約							
根拠・データ等								
事業スケジュール	昭和26年度 小学校体育大会（令和3年度に終了）・中学校総合体育大会 開始 昭和35年度 小学校体育実技發表会 開始 昭和39年度 学校体育研究發表会 開始 昭和40年度 小学校球技大会（平成30年度に終了） 開始 昭和41年度 小学校水泳大会（令和元年度に終了） 開始 平成26年度 小中学生とオリンピック・パラリンピアン等トップアスリートとの交流事業 開始 平成30年度 オリンピック・パラリンピック教育推進校設置事業 開始 令和3年度 小学校水泳学習における民間スイミングスクール活用事業 開始							
事業開始年度	昭和26年度							

(単位：千円)

細事業(事業内訳)	細事業名称	6年度	5年度	差引(増減)	増減説明
		1	小学校水泳学習における民間スイミングスクール活用事業	50,000	28,330
2	小学校体育実技發表会	1,002	1,133	▲131	実績による減
3	中学校総合体育大会	7,879	8,079	▲200	実績による減
4	市立高等学校総合体育大会	403	409	▲6	実績による減
5	各種大会補助金	50	50	0	

細事業(事業内訳)	6	学校体育研究発表会	297	237	60	実績による増
	7	県体育連盟加入金	4,215	4,265	▲50	学校数・学級数の減に伴う減
	8	小中学生とトップアスリートとの交流	1,336	700	636	新規要求による増
	9	学校体育安全対策事業	1,000	0	1,000	新規による増
	細事業合計		66,182	43,203	22,979	

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、 公正・適正に作成しました。	課長	係長	
	高橋 義成	平戸 秀樹	内田 裕乃

令和6年度 事業計画書

事業局課	教育委員会事務局	小中学校企画課	新規拡充	□ 新規 □ 拡充	事業評価書番号	3					
歳出予算科目	一般会計	17	款	7	項	2	目	政策番号	5	施策番号	99
事業名称	体験学習等援助費支給事業										

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和6年度	31,845	0	0	0	0	31,845
令和5年度	27,046	0	0	0	0	27,046
増▲減	4,799	0	0	0	0	4,799

歳出		令和3年度	令和4年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	事業費	30,534	28,873	31,845	31,845	31,845
	市債＋一般財源	30,534	28,873	31,845	31,845	31,845
決算	事業費	7,618	25,610			
	市債＋一般財源	7,618	25,610			

事業概要 (アクティビティ)	「就学困難な児童及び生徒に係る就学奨励についての国の援助に関する法律」に基づき、小学校宿泊体験学習・中学校自然教室に参加した準要保護児童・生徒に対し、食事代・シーツ代・宿泊施設利用料の経費を援助費として支給します。							
事業指標① (アウトプット)	年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
年度別支給実績	単位	9,707	9,474	8,350	8,135	8,135	8,135	8,135
	人	2,510	8,117	/	/	/	/	/
事業指標② (アウトカム)	年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
「自分づくり」「仲間づくり」の合計値が上昇している学級の割合	単位		50	53	56	60	63	66
	%	48.1	49.9	/	/	/	/	/
事業目的	就学困難な児童及び生徒に対して援助費を支給することで、保護者の負担を軽減し、経済的な理由により小学校宿泊体験学習・中学校自然教室に参加できなくなることを防ぐ効果が見込まれます。							
背景・課題	小学校宿泊体験学習・中学校自然教室に係る食事代・シーツ代・宿泊施設利用料の経費は就学援助費の支給対象となっていないことが背景にあります。							
根拠法令・方針決裁等	学校教育法、横浜市立中学校自然教室及び横浜市立小学校体験学習に関する援助費交付要綱							
根拠・データ等	・支給割合（請求人数/就学援助認定者数） <小学校>29年度82.97%、30年度86.22%、元年度85.06%、2年度21.07%、3年度28.83%、4年度85.75% <中学校>29年度36.14%、30年度38.45%、元年度33.91%、2年度7.74%、3年度7.36%、4年度35.78% ※ 2年度・3年度は、新型コロナウイルスの影響により小学校宿泊体験学習・中学校自然教室が中止又は日帰りとなった学校が増え、支給割合が大幅に減少しています。							
事業スケジュール	・平成24年度 「横浜市立中学校自然教室及び横浜市立小学校体験学習に関する援助費交付要綱」制定 ・平成31年度 要綱改正							
事業開始年度								

(単位：千円)

細事業(事業内訳)	細事業名称		6年度	5年度	差引(増減)	増減説明
	1	体験学習等援助費支給事業		31,845	27,046	4,799
	細事業合計		31,845	27,046	4,799	

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、公正・適正に作成しました。	課長 高橋 義成	係長 平戸 秀樹	飯田 絵美
------------------------------------	-------------	-------------	-------

令和6年度 事業計画書

事業局課	教育委員会事務局	小中学校企画課	新規拡充	□ 新規 □ 拡充	事業評価書番号	04					
歳出予算科目	一般会計	17	款	7	項	2	目	政策番号	05	施策番号	99
事業名称	少年自然の家運営費										

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和6年度	190,523	0	0	131	40,000	150,392
令和5年度	190,494	0	0	131	0	190,363
増▲減	29	0	0	0	40,000	▲39,971

歳出		令和3年度	令和4年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	事業費	217,484	208,672	193,362	193,362	193,734
	市債＋一般財源	217,355	208,544	191,263	193,533	193,905
決算	事業費	155,600	195,637			
	市債＋一般財源	155,472	195,453			

事業概要 (アクティビティ)	①施設運営 恵まれた自然環境の中での集団宿泊生活、野外活動、自然観察等を通して、体力の向上を図るとともに豊かな情操及び社会性を培い、心身ともに健全な少年を育成することを目的として、横浜市少年自然の家(赤城林間学園・南伊豆臨海学園)の指定管理者による管理運営を行います。 ②交流事業 昭和村と南伊豆町の児童(小学校5または6年生各80人程度)を横浜に招待し、市内の各施設にて様々な体験、交流活動を行います。(日程：1泊2日 1日目(横浜着、市内見学他)、2日目(市内施設見学等) 宿泊：市内野外活動センター)						
-------------------	--	--	--	--	--	--	--

事業指標① (アウトプット)		年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
	単位	目標							
	実績								
事業指標② (アウトカム)		年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
	単位	目標							
	実績								

事業目的	横浜市少年自然の家(赤城林間学園・南伊豆臨海学園)は、横浜市立学校の児童生徒や市内青少年団体が、山・高原(赤城)と海(南伊豆)の自然体験の場として低額で利用できることや、団体利用のない日は家族・個人利用も可能であることから、市民にとって需要のある貴重な施設となっています。また、本施設の管理運営を指定管理により行うこと及び施設の円滑な運営を目的として、指定管理者が実施する地元町村との交流事業を補助します。
------	---

背景・課題	当該施設は老朽化が進み、大規模な修繕が必要となっています。6年度も引き続き、施設の保全計画等に基づき緊急性が高いと判定された項目を中心に設計・工事を行います。施設の状態整備を行うことで、適正・効率的な維持管理、利用者の安心・安全な利用及び利便性の向上等を図ります。
-------	--

根拠法令・方針決裁等	横浜市少年自然の家条例、同条例施行規則、横浜市教育施設協力町村児童受入事業補助金交付要綱
------------	--

根拠・データ等	
---------	--

事業スケジュール	昭和54年度 赤城林間学園 開設(山の家S54開設、鳥の家S62開設) 昭和55年度 南伊豆臨海学園 開設 平成18年度 両施設とも指定管理制度の導入(財)横浜市スポーツ振興事業団) 平成23年度 両施設とも第2期指定管理期間開始(財)横浜市体育協会 ※現(公財)横浜市スポーツ協会) 平成23年4～11月 横浜市公共施設のあり方検討委員会開催 平成24年3月 第1回市会で基本的な考え方(素案)を説明 4月～ 市民意見募集、7月～ 施設の対応を検討 平成25年3月 今後の対応方針を市会へ報告(キャンプ場廃止、跡地返還を村と協議) 平成25年度 赤城林間学園キャンプ場 閉鎖 平成27年5月 「プール及び野外活動施設等の方針の方向性」を常任委員会へ報告 (引き続き、利用促進、経営改善に努める) 平成27年9月 第3回市会定例会で施設の存続が決定 平成26年度 両施設とも第3期指定管理期間開始(指定管理者：(公財)横浜市体育協会 ※現(公財)横浜市スポーツ協会) 令和元年度 両施設とも第4期指定管理期間開始(指定管理者：(公財)横浜市体育協会 ※現(公財)横浜市スポーツ協会) 令和5年度 第5期指定管理者の選定に伴う指定管理者選定評価委員会開催
事業開始年度	指定管理者による管理運営：平成18年度 交流事業：昭和48年度

(単位：千円)

細事業名称		6年度	5年度	差引(増減)	増減説明
細事業(事業内訳)	1 施設運営及び修繕のための設計及び工事	189,623	189,222	401	
	2 交流事業	900	900	0	
	3 指定管理者選定評価委員会	0	372	▲372	委員会を開催しないことによる減

	細事業合計	190,523	190,494	29	
--	-------	---------	---------	----	--

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、公正・適正に作成しました。	課長	係長	
	高橋 義成	平戸 秀樹	山本 哲也

令和6年度 事業計画書

事業局課	教育委員会事務局	小中学校企画課	新規拡充	□ 新規 □ 拡充	事業評価書番号	5					
歳出予算科目	一般会計	17	款	7	項	2	目	政策番号	6	施策番号	1
事業名称	中学校部活動支援事業										

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和6年度	347,858	82,277	0	143	0	265,438
令和5年度	352,949	84,458	0	12	0	268,479
増▲減	▲5,091	▲2,181	0	131	0	▲3,041

歳出		令和3年度	令和4年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	事業費	297,261	329,950	347,214	347,214	347,214
	市債＋一般財源	225,574	251,991	264,813	264,813	264,813
決算	事業費	204,016	283,335			
	市債＋一般財源	148,423	207,475			

事業概要 (アクティビティ)	市立中学校の生徒、教職員など、部活動に関わる全ての人々が調和のとれた生活の中で、部活動を持続可能な形で運営することができるよう、各事業を通じて、生徒の活動の充実及び教職員の負担軽減を図ります。							
事業指標① (アウトプット)	年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
部活動指導員配置計画	単位	310	441	441	441	441	441	441
	人	464	619	/	/	/	/	/
事業指標② (アウトカム)	年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
	単位							
	実績			/	/	/	/	/
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育法施行規則の改正により学校職員として位置付けられ、顧問を担い、単独で引率も可能な部活動指導員を任用し、生徒の活動機会の確保、部活動の活性化、教員の負担軽減を図り、持続可能な部活動の実現を目指す。(部活動指導員配置事業) ・中学校、義務教育学校後期課程の運動部活動を対象に、「科学的な根拠に基づくトレーニングの実践」を目的に指導を行う「部活動コーディネーター」を希望校に派遣し、怪我をしにくく、短時間で効率的なトレーニングの導入を進めるなど、顧問教員を支援する。(部活動コーディネーター派遣事業) ・市立学校の部活動について、生徒にとっても教員にとっても持続可能なものとするため、国の提言や「部活動の地域移行に関するプロジェクト」による検討内容、地域や各学校の実情等に基づき、休日の運動・文化部活動を試行的に地域に移行する実践研究に取り組む。(部活動地域移行推進事業) ・小学校が設置する特設クラブの活動について、大会に出場する際の遠征費用等を支援する。(特設クラブ大会遠征費援助) ・長時間練習などの過度な活動を抑制するとともに、生徒も教員も調和のとれた学校生活の中で部活動を楽しみ、持続可能な部活動の実現を目的として、部活動ガイドラインの作成・配付を行う。(部活動ガイドライン) 							
背景・課題	<p>部活動は生徒のスポーツに親しむ機会を確保するとともに、自主的・主体的な参加による活動を通じて、責任感・連帯感の涵養、自主性の育成等にも寄与しています。</p> <p>一方で、担い手である教員の長時間労働及び質的变化、保護者からの期待の高まりなど、持続可能性という面で厳しさを増しています。現状を見極め、保護者の理解も得ながら、持続可能な部活動の実現を目指します。</p> <p>【参考：国の動き】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」(平成30年3月) ・「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」(平成30年12月) ・「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言」(令和4年6月) ・「文化部活動の地域移行に関する検討会議提言」(令和4年8月) ・「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」(令和4年12月) 等 							
根拠法令・方針決裁等	平成29年3月14日28ス庁第704号「学校教育法施行規則の一部を改正する省令の施行について」(部活動指導員配置)							
根拠・データ等	令和5年度 市内全中学校(義務教育学校 後期課程を含む)に1人以上の部活動指導員を配置							
事業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度：部活動指導員の任用・配置を開始 ・令和元年度：部活動ガイドラインの作成、配付開始 ・令和2年度：従来の部活動指導員・部活動外部指導者の両職種を、部活動指導員として一本化 小学校特設クラブ全国大会遠征費援助開始 ・令和3年度：部活動コーディネーター派遣事業開始 ・令和4年度：部活動指導員のうち、常態的に顧問に代わり指導・引率を行うパイロット指導員を配置 部活動の地域移行に関するプロジェクト開始 ・令和5年度：部活動地域移行推進事業 開始 							
事業開始年度	昭和53年度							

(単位：千円)

細事業名称		6年度	5年度	差引(増減)	増減説明
細事業(事業内訳)	1 部活動指導員配置事業	325,189	323,295	1,894	実績による増
	2 部活動コーディネーター派遣事業	5,040	5,040	0	

細事業(事業内訳)	3	部活動地域移行推進事業	■■■■■	20,000	■■■■■	実績による減
	4	特設クラブ全国大会遠征費援助	1,800	1,200	600	実績による増
	5	部活動ガイドライン	■■■■■	330	■■■■■	単価の増による増
	6	会計年度任用職員(日額職)	3,779	3,084	695	算定率の変更による増
	細事業合計		347,858	352,949	▲5,091	

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、公正・適正に作成しました。	課長	係長	
	高橋 義成	平戸 秀樹	戸田 萌里

令和6年度 事業計画書

事業局課	教育委員会事務局	小中学校企画課	新規拡充	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 拡充	事業評価書番号	06					
歳出予算科目	一般会計	17	款	7	項	2	目	政策番号	05	施策番号	99
事業名称	武道安全対策事業										

(単位：千円)

区分	金額	財源内訳				
		国	県	その他	市債	一般財源
令和6年度	22,594	0	0	114	0	22,480
令和5年度	21,379	0	0	90	0	21,289
増▲減	1,215	0	0	24	0	1,191

歳出		令和3年度	令和4年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	事業費	20,673	20,793	22,594	22,594	22,594
	市債＋一般財源	20,623	20,743	22,480	22,480	22,480
決算	事業費	21,345	21,483			
	市債＋一般財源	21,290	21,410			

事業概要 (アクティビティ)	①武道安全対策委員会の設置 外部有識者等で構成する武道安全対策委員会を開催し、安全対策の検証及び検討を行う。 ②武道安全等指導員の配置 武道の専門家である武道安全等指導員を配置し、学校への助言及び指導を行う。 ③武道安全研修の実施 教員の指導力向上のための研修を行う。								
事業指標① (アウトプット)	年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	
武道安全研修の受講者数(累積)	単位	目標	約2,850	約2,950	約3,050	約3,150	約3,250	約3,350	約3,450
	人	実績	約2,850	約2,900					
事業指標② (アウトカム)	年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	
	単位	目標							
		実績							
事業目的	平成24年4月から中学校において新学習指導要領が実施され、保健体育科において必修化された武道授業に起因する事故等の発生を未然に防ぐとともに、各学校でより安全に指導が行えるよう安全対策を検討及び実施する。								
背景・課題									
根拠法令・方針決裁等	武道安全対策委員会設置要綱								
根拠・データ等									
事業スケジュール	平成20～23年度 武道必修化に向けた対策を実施（武道場未整備校に対する畳の配備・教員向け研修の実施） 平成24年度 より安全に武道授業を実施するために、専門家等による武道安全対策委員会の開催、教員向け武道安全研修の実施、武道安全等指導員を配置。 平成25年度 柔道用マット利用校で畳の整備を希望する学校に畳を配当。武道安全等指導員による「授業訪問の記録」を中学校に配付。 平成26年度 武道場未整備校のうち希望校に畳滑り止めを配当。武道安全等指導員を1名増員し、柔道の専門家を各方面学校教育事務所に、剣道の専門家を所管課にそれぞれ配置（計5名） 平成27年度～ 武道安全等指導員による「学校訪問の記録」「武道安全Q&A」を中学校に配付 令和4年度～ 武道安全等指導員の学校への巡回実績などを基に、けがの要因や予防のための対策をわかりやすく学校に伝えるためのツールとして月1回を目安に、新たに「武道通信」を作成・発信								
事業開始年度	平成21年度								

(単位：千円)

細事業(事業内訳)	細事業名称	6年度	5年度	差引(増減)	増減説明
		1	武道安全対策委員会の設置	250	247
2	武道安全研修の実施	26	26	0	
3	武道安全等指導員の配置	22,318	21,106	1,212	算定料率の変更による増

	細事業合計	22,594	21,379	1,215	
--	-------	--------	--------	-------	--

本資料は、評価やデータなどを踏まえ検討し、公正・適正に作成しました。	課長	係長	
	高橋 義成	平戸 秀樹	山本 哲也